



ノーベル賞・折り紙部門誕生か

今夏、イギリスのサマースクールに参加した、宮島大河の折り紙で作った掃除機をみて驚かされた。彼は父親の仕事の関係でアメリカ合衆国に住んでいた頃、マサチューセッツ工科大学の折り紙クラブのメンバーに所属。帰国後、地元の公立の小学校に通い始めたが、姉妹の間で育ったお母さんは、息子二人の子育てと、大学講師と言う仕事のバランスが崩れると、手作りのランチを持って現れ歓談は続いていた。

そして、今夏、ご主人はイギリスの大学仲間と論文の共同作業、息子二人はサマースクールで寄宿舎生活、そしてお母さんは好きな美術館、博物館周りでリフレッシュするため一家はイギリスに飛び立つ。

以前から大河の折り紙技術に注目していた私は、これをコミュニケーション・ツールとして使えば、彼の大きな自信に繋がると思い、折り紙を見せる機会を提供してくれるようにディレクター

に頼んでいた。しかし本部と現場の手違いでそのチャンスは消えたが、お母さんの配慮でコンタクトをとっていたBOS（英国折り紙協会）と合流する事が実現。

先日、NHK教育番組で「世界の折り紙マエストロたち」と言う番組が放映された。

それは将来、科学、生物、医学の技術面で、折り紙がいかに世界に貢献するかと言う内容であった。

特にマサチューセッツ工科大学の研究者のコメントが凄かった。折り紙の技術を使っていかに体内のタンパク質を折ることが出来るか、この技術が成功すれば、難病の治療薬の投与に役立つと明言したのである。

アメリカ合衆国に滞在中、同大学の折り紙クラブで大人たちに混じり、厚い英語本を脇に興味の幅を広げた大河が、将来、専門分野の研究を突き進めノーベル賞・折り紙賞を設立させる日が来るかも。



Michi recommends 響く本『水は深く掘れ』



草柳大蔵
(くさやなぎ だいぞう)

1924年神奈川県生まれ。
東京大学法学部政治学科卒業。
雑誌編集者、新聞記者を経て執筆活動に入り、
ルポルタージュに新生面をきりひらく。
評論、人物論、女性論、芸術論とマスコミ界で多彩な活動を続けてる。
著書：「実力者の条件」
「実録満鉄調査部」
「美しく生きるとき」
「あなたの死にがいは何ですか？」等多数。

見よこころする心。

人にも物にもそれぞれ「勿体」がある。「花は紅、柳は緑」である。それでは、人はいかにして自分の「勿体」を知るべきか。自分がたとえ一条の光でもよい。小さな灯明になるにはどうしたらよいか。それには、次章で述べるように「精進」しかないはずである。

ところが、現代は「ノウ・ハウの時代」ともいわれ、仕事の手順を分解してマニュアル化し、そのマニュアルに従えば、誰でも苦勞せず間違えずに仕事をやりおこせるようになった。まさに、文明とはアレキシスカレル(フランスの血清学者でノーベル賞受賞者)のいうように「最少の労力で最大の効果」をあげるのをその本質としている。

たしかに、「ノウ・ハウの時代」は人間を苦役に似た労働から開放する、人間の知恵の所産である。

しかし、「ノウ・ハウ」が評価されるのは、あくまで物的生産の範囲の問題にすぎない。創造というような精神的作業には万人

に普通の「ノウ・ハウ」はありえない。もし、あるとすれば、それは模倣するための「ノウ・ハウ」でしかない。わかりきったことである。

しかし、日本の現状を見ると、「ノウ・ハウの時代」が工場からはみ出してきて、人間の精神活動にまでひろがりつつあるのでないか。

たとえば、私の領域でいうと、「文章講座」というのがどのカルチャーセンターにもできている。どうしたらうまい文章が書けるか、そのノウ・ハウが伝授されているのだが、これが私にはどうしてもわからない。文章などというものは、毎日、違うものである。違わなければならないものである。表現する対称によって違い、読者の種類によって違ってくる。この違いを書き分けられなければならない「思いあがりの御仁」になるだけだ。

しかし、実際には文章はノウ・ハウ化されている。この世の中で、最後まで大量生

産は不可能と思われな文章はいまや、マス・プロ化されたのだ。その証拠が、企業や団体の發送する手紙である。

どの手紙も「拝啓 平素はひとかたならぬお世話になり……」で始まり、「何かと多忙のところを恐縮ですが」とへりくだってみせ、「以上の件につきましては御高配くださいますよう、よろしくお願い申し上げます」と結んでいる。政界では右から左まで、企業でいえば世界的企業から零細企業まで、団体でいえば芸術家グループからスポーツ協会まで、ぜんぶ同じ文脈、同じ表現なのである。人間は千差万別(松下幸之助氏にいわせれば千差億別)なのに、どうして発信者側は単一のメッセージを書くのであろうか。この感覚鈍磨の背景には「マス・プロ信仰」があることは否めない。いや、私は現代の文章作法を責めているのではない。なぜなら、責めるに値しないほど、人の心を度外視した醜悪なものとなりはてているからである。

不透明な時代。

難波様
先日は恵美のライブにご一緒出来まして嬉しゅう御座いました。いつもお心に掛けて頂きまして有難く、感謝を申し上げます。

私は祖母として、恵美の成長を遠くから見守るだけで御座います。次々と作詞、作曲をして、ピアノを弾きながら歌の練習をしております姿を見ますと、安堵感と共に、将来よい機会に恵まれますようにと祈る心で一杯になります。日々、関心が下がります。今後とも、皆様のご声援を宜しくお願い申し上げます。

此の秋に九十歳を迎えました私は、十月からパソコン教室に通い始めました。新しい携帯電話の操作が難しく、恵美に「教えて！」と声を掛けております。世界の平和、家族の健康、幸せを祈りつつ、此の後とも孫達の成長を楽しみに生きて行く事が出来ましたらと思つて居ります。

篠遠華子

篠 / 遠 / 恵 / 美 *Megu*

